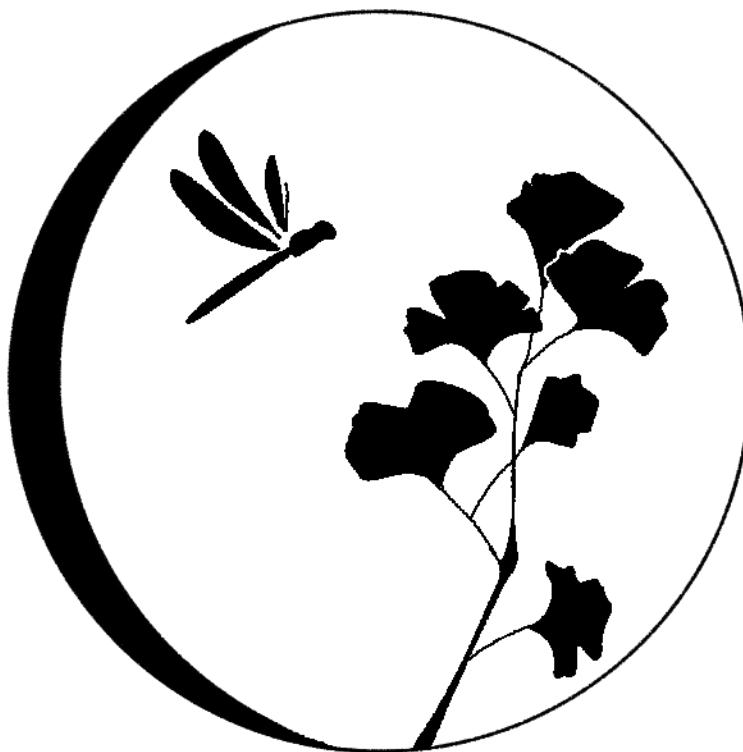


# かげぼうし

令和 7 年 10 月号



狐鶲堂

# 童心にもどるための謡

そういうものがあったって良いと思う  
という気持ちで、  
原風景や幻想を書き残している。

つぎつぎ生まれた童謡たちは、  
季節の背後に伸びてしまった、  
さみしいさみしいかげぼうし。

黄色いもの

黄色いもの なあに

おやつの時間のガラス窓。

黄色いもの なあに

お庭にとまつたカワラヒワ。

黄色いもの なあに

お墓でゆれる菊の花。

黄色いもの なあに

また来る朝のしおらしさ。

どんぐりひろい

森の玄関に狐のしつぽ  
ひとつ ふたつ マテバシイ  
森の書斎に鳥のペン先  
みつつ よつつ コナラの実  
森の広間に兎のビショツプ  
シラカシいつつ ブナむつつ  
森が蒼みを増す前に  
ななつ拾つて帰りましよう

かえりみちの秋

農家のもみがら香つてる  
垣根の夕顔しばんでる  
どこかで自身の魚が焼けて  
どこかは南瓜を煮つけてる  
なにがこわいか知らないが  
歩みはだんだん早くなる

本誌に収録された詩の無断使用および無断転載を禁ずる。



童謡小冊子「かげぼうし」10月号

発行日：令和7年10月15日

---

発行・著：入山夜鶴（狐鶴堂）

X(旧Twitter)：@812\_iri

Mail：yaits\_bngk @ outlook.jp

Portfolio：potofu.me/812iri →

